

第3分科会－6

介護職員が学生に「介護の魅力」を伝える

他法人協働

人材育成

他法人協働で目指す「未来の仲間」への呼びかけ

東京都 西多摩地区

特別養護老人ホーム えいこう もり 栄光の杜 ・ くさばなえん 草花苑

草花苑 介護副主任 ふくいずみかな 福泉加奈
栄光の杜 介護副主任 にしかわな おみ 西川奈緒美

さんえんキャンプ実行委員

eikou-katou@eikounomori.or.jp

kusabanaen@keiryu.or.jp

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

東京都西多摩地区の特別養護老人ホーム栄光の杜、草花苑、増戸ホームの異なる法人3施設で発足しました。20代の職員を中心として介護体験キャンプを軸に、学生に「介護の魅力」を伝えていく取り組みを行っています。

<取り組んだ課題>

介護職員人材難の一因として、世間の介護に対するマイナスイメージがある。また、養成校で介護を学ぶ学生にも変化が起き、イメージの低下が起きている。これらを払拭し、プラスイメージに転換していくには、介護現場の私達から積極的な発信が必要ではないか。

一般的なADLケアやルーチンワークを伝えるだけでは、表面的な「3K」の印象に繋がってしまう為、お年寄りの想い、願いが表現される場で、支援経過の理解と成果を学生が共有する事で介護の魅力を実感してもらいたい。また、介護職員が学生に伝える事で、より強く介護職としてのやりがい、充実感を伝える事が出来るのではないか。

<具体的な取り組み>

1. 組織構成…特養2施設から学生の年齢に近い20代の介護職員各3名選出する。
2. 活動方針…「お年寄りの想いに寄りそう」
3. 活動内容
 - ・会議…毎月2回の会議を開催し、今後の活動について話し合いを行う。
 - ・広報…インターネットやポスターを使用し公共施設や学校へ広報活動を行う。
 - ・施設見学や1泊2日介護体験キャンプの実施
 - 1日目は2施設合同施設見学を実施し、実際の現場の中でも施設の雰囲気やケアの展開方法に違いがある事を説明した。夜は職員と参加者でBBQを行い交流の場を設けた。
 - 2日目は各施設で職員が作成したお年寄りの想いに寄りそった企画を実施し、学生とお年寄りとの関わりで介護の魅力伝えた。

<活動の成果と評価>

- ・介護体験では、私達がお年寄りの各々の想いを大切にし、やりがいや充実感を持って介護に携わっている事を感じてもらえる機会となった。
- ・アンケート結果から、「入居者はずっと座っているだけのイメージでしたが、職員が入居者をよく理解しその想いに応えるという事が介護の仕事だと実感しました」と、学生のイメージの劇的な変化を実感した。また、教員方から介護実習では得られない経験が多面的に含まれることが評価されました。
- ・お年寄りの想い、願いが表現される場を共有し職員から充実感や専門性を伝える事で、イメージの転換と期待感を持ってもらえた。また、他施設協働であるからこそ「介護業界全体としての魅力」として伝わった。

<今後の課題>

これからの介護人材の開拓は受け身ではいけない。場当たりの対応策や流行に乗った働きかけでは何の解決策にもならない。現在の介護福祉の現場で必要とされている人材とは、介護のやりがいや魅力を持ち真摯にお年寄り向き合える介護職である。そして、将来協働し得る学生に現場で働く職員が介護の魅力を具体的に、そして真剣に伝える事が必要である。

また、一施設だけの活動では、独自の取り組みに留まる。法人の垣根を超える広域的な働きかけによって「介護福祉現場の魅力」として伝える事ができる。そして、介護を学ぶ学生のみならず、あらゆる世代の人達に介護の魅力を発信し、その素晴らしさを知ってもらえる事になる。このような活動が今後の高齢者福祉を支えていくのではないだろうか。